



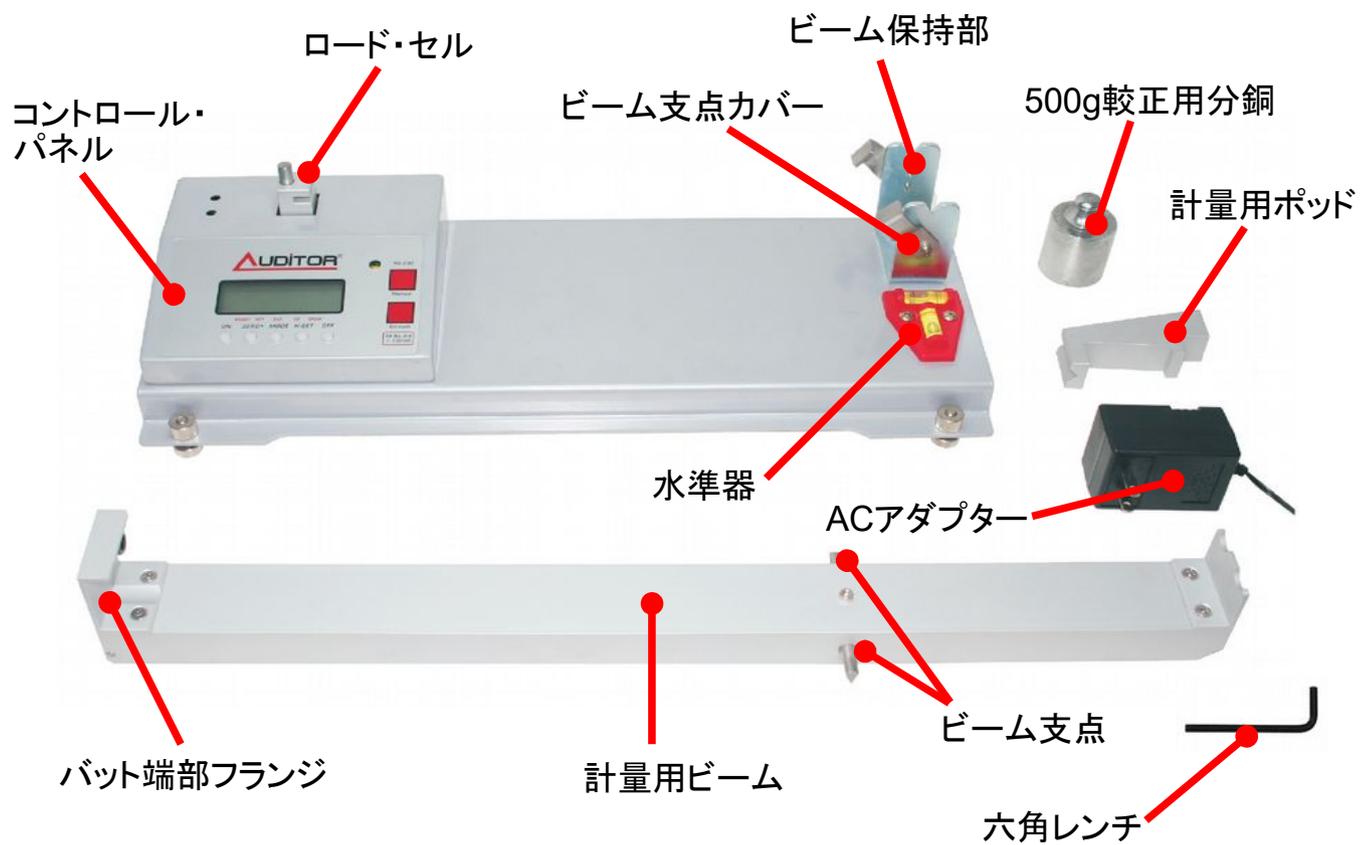
#020711



業務用 デジタルスイングウェイトスケール取扱説明書 (#5904-0191)

※本書中の画像について、一部、商品と異なる部分がございます。

【製品の概略】



ACアダプター接続ソケット



【組立と設置】

下記のパーツがもれなく同梱されているか、ご確認ください。機器の破損や欠損しているパーツがあった場合、当社までご連絡下さい。

- ・本体
- ・計量用ポッド
- ・計量用ビーム
- ・500g較正用分銅
- ・ACアダプター
- ・取扱説明書

【組立・設置手順】

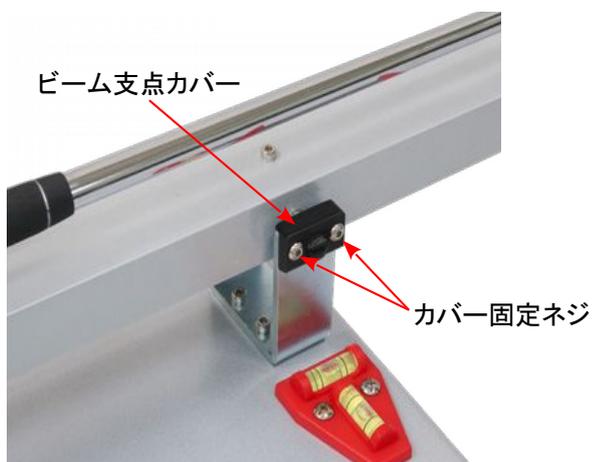
1. 揺れや振動が機器に伝わらない作業台の上に本体を設置して下さい。スウィング・ウェイトの計測のため、本体の右方には、1メートル程度のスペースを設けて下さい。直射日光が当たる場所や、冷暖房、換気機器、また粉塵を発生させるような機器の近くは避けて下さい。

2. 本体に備えられた水準器を見ながら、脚部のダイヤルを回して本体を水平にして下さい。

3. 計量用ポッドをロード・セルに挿し込みます。ロード・セルの故障を避けるため、強く押し込まないで下さい。



4. ビーム保持部に取り付けられたビーム支点カバーの2本のカバー固定ネジを付属の六角レンチでゆるめ、カバーを左右双方とも取り外します。



5. 計量用ビームを水平に持ち、ビームのバット側端部フランジ(突起、つば)をロードセルのスロット(切れ込み)に差し込みます。差し込んだら、計量用ビームの支点(鋭利な形状ですので、怪我にご注意下さい)を、本体のバランス・ポストにあるV字型のビーム保持部にセットします。ビーム保持部で支点で暴れず、しっかりと計量用ビームがセットされているか確認し、2つの支点カバーを六角レンチを使って、再度取り付けて下さい。

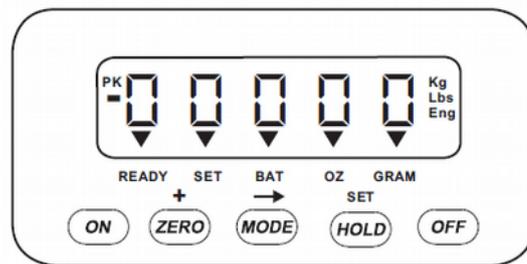


6. 本体左側のアダプター接続ソケットにACアダプターのコネクターを繋ぎ、コンセントにアダプターを挿して下さい。

7. "ON"ボタンを押して、電源を入れて下さい。起動プロセスを終えると、"0.0"が表示され、"READY"の箇所にインジケーターが表示されます。

※設置後、500g較正用分銅を計量用ポッド上に載せ、実測値の確認を行って下さい。詳細は、5ページをご覧ください。

【コントロール・パネルの表示と各ボタン】



[ボタン]

"ON": 電源を入れる。

"ZERO": 表示をゼロにリセットします。風袋を取る場合にも使用します。

"MODE": Kg(キログラム)、g(グラム)、Lbs(ポンド)、Ounces(オンス)の4つのモードを切り替えます。このうち、Kgモードはスウィング・ウェイト計測兼用です。

"H-SET": 液晶に表示された最後の計測値を保持し、記憶させる際に使用します。再度押すと、記憶した数値を消去し、次の計測が行えます。

"OFF": 電源を消します。

[インジケーター]

"READY": 計測可能時に点灯

"OZ": オンス・モード時に点灯

"Gram": グラム・モード時に点灯

"Kg": キログラム・モード時に点灯

"Lb": ポンド・モード時に点灯



【各種の計測方法】

下記は、いずれも電源を入れ、"READY"のインジケータが表示された状態からの手順になります。

◎スウィング・ウェイト(クラブ)

グリップエンドを計量用ビームのバット端に静かに当て、ビーム先端のシャフト・レストにそっと置いて下さい。スウィング・ウェイトが表示されるまで、"MODE"ボタンを押して下さい。グリップエンドをビームのバット端や計量用ポッドにぶついたり、強く押し付けるとロード・セルの故障に繋がりますので、避けて下さい。

◎クラブ重量

計量用ポッドのV字受け部で、クラブがバランスするように置いて下さい。ご希望の単位モードになるまで、"MODE"ボタンを押して下さい。

◎コンポーネント重量

ヘッドやグリップ、シャフトの重量計測の際も、計量用ポッドの上で計測して下さい。

※本器で重量計測する際は、計測毎に何も乗せない状態で"ZERO"ボタンを押し、較正を行って下さい。



◎スウィング・ウェイト(グリップ無クラブ)

グリップ単体を計量用ビームのバット端上面にグリップ・エンドが当たるように置き、グリップの無い状態のシャフト端部をシャフト・ホルダーに挿して下さい。使用予定の両面テープをグリップと一緒に置くと、さらに正確です。
※シャフト・ホルダーは、グリップ・キャップの補正器を兼ねています。

○長期間の不使用后や、衝撃を受けた場合等、特殊な事情が無い限り、付属の500g較正用分銅を使用してのキャリブレーションは必要ありません。

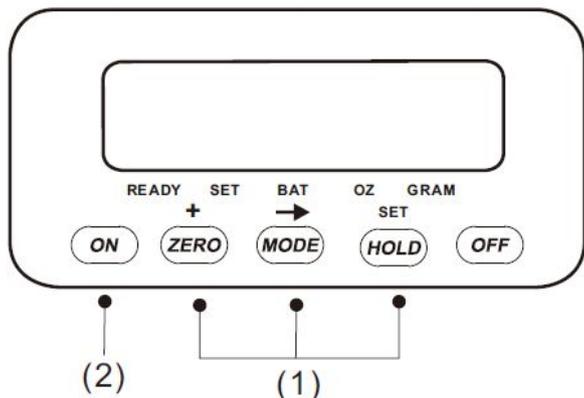
【キャリブレーション】

設置して初めて使用する場合や、緯度方向の移動を行った場合等、キャリブレーションが必要なことがあります。

キャリブレーションが必要かどうかは、"ON"ボタンを押して機器の電源を入れ、下図のように、500g校正用分銅を計量用ポッド上部に横倒しで載せ、表示される重量を確認し、500±0.5g以内におさまるかで判断します。もし、この範囲におさまらない場合、以下の手順でキャリブレーションを行って下さい。

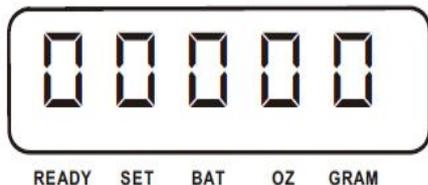


※キャリブレーションを開始する前に、計量用ビームを取り付けてある場合は、必ず、取り外して下さい。

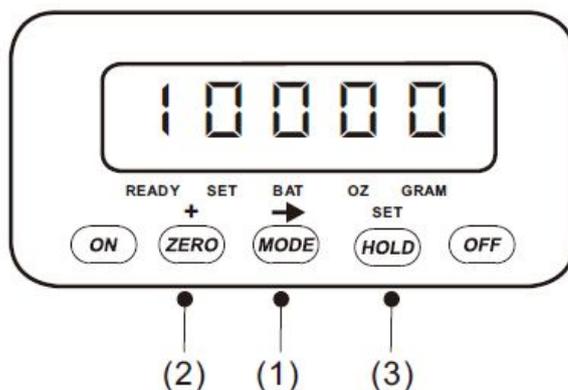


○キャリブレーション機能の呼び出し

1) 電源を切った状態で、"Zero"、"Mode"、"H-SET"の3つのボタンを同時に押しながら、"ON"ボタンを1度押します。起動が完了し、下図のように5つの0が表示されるまで、3つのボタンは押し続けて下さい。



2) "MODE"ボタンを押すと、5桁の各数字の下の▼マークが右の桁に動きます。"ZERO"ボタンを押すと、▼マークのある桁の数字が変化しますので、



"MODE"、"ZERO"ボタンを操作し表示を"10000"に変更してから、"H-SET"ボタンを押して下さい。

表示が以下の"00500"に変化します。



◎キャリブレーション

Step-1 上記"00500"と表示された状態で、500g校正用分銅を、計量用ポッド上部に横倒しで載せませう。(左図参考)

Step-2 "H-SET"ボタンを押すと、表示が一旦消えます。

Step-3 数秒後、表示は実測値に変わります。500±0.5gであれば、"H-SET"ボタンを押します。

※もし、表示が500±0.5gにおさまらない場合、一旦、校正用分銅を取り除き、"ZERO"ボタンを押して表示が"0"になったら、Step-1～3を繰り返して下さい。

Step-4 機器が再起動されます。一旦、電源を切り、計量用ビームを取り付けてから、使用して下さい。

○アドバンスドキャリブレーション

上述のキャリブレーションを行っても、計測の再現精度が得られない場合は、機器の工場設定を変更するアドバンスドキャリブレーションが用意されていますが、通常は行わないで下さい。